

2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

次の(設例)を読んで、問(1)、(2)に答えなさい。

(設例)

1. 平成29年1月〇日の深夜、一人暮らしの資産家V方に複数の男が侵入してVを縛り上げ、V方にあった現金約500万円を強取する事件(以下「本件強盗事件」という。)が発生した。

所轄警察署警察官Kが、V方設置の防犯カメラの画像を分析すると、発生時刻頃、V方庭を歩く複数の男が映っていた。Kは、そのうち容姿が比較的鮮明に映っている人物(A)が、年齢・体格・服装等の類似性から、かつて検挙したことのある甲ではないかと疑った。Kは、甲が乙を筆頭とする地元の不良グループに属していたことから、同グループ周辺者への聞き込みを行うと、乙やその仲間の金回りがにわかに良くなったとの情報が得られた。

Kは、Aと甲の同一性を確かめるため、甲の容貌等をカメラで撮影することとし、①昼間、公道を歩く甲の姿を、付近に停車した自動車内からビデオカメラを使って動画で約1分間撮影した。また、Kは、甲の顔面をより大きく鮮明に撮影すべく、甲の自宅のあるアパートに赴き、②共用廊下から、同廊下に面した甲の部屋の窓(施錠されていない)を秘かに開けて、室内のソファで寝ている甲の顔面を、デジタルカメラのズーム機能を使って静止画で1枚撮影した。なお、これらの撮影の際、Kは、甲の同意を得ておらず、またこれに関する令状も取得していない。

2. Kは、これらの画像を鑑定資料として専門家に顔貌等の同一性鑑定を囑託したところ、Aが甲に酷似している旨の鑑定結果が得られたことなどから、甲を通常逮捕した。甲が、逮捕勾留後の取調べにおいて、前記防犯カメラに映ったAについては自分であること、乙とそのグループ仲間と一緒に本件強盗事件を起こしたことを自供するに至ったので、Kは、乙を通常逮捕した。

しかし、乙は、本件強盗事件への関与を否認し、その後の取調べに対し黙秘した。すると、Kのところへ、匿名の手紙が送られてきて、そこには、携帯電話のカメラ機能で撮影されたと思料される静止画像がプリントアウトされたもの1枚(以下「本件写真」という。)が同封されていた。本件写真には、二人の男がV方の扉を乗り越える場面が映っており、これを甲に呈示すると、甲は、「この写真の人物は、私と乙である。本件強盗事件を起こして逃げる場面のものだ。」と供述したが、Kが、所要の捜査を尽くしても、本件写真の撮影者を特定することはできなかった。

甲と乙は、共謀により本件強盗事件を起こしたとして公判請求された。

2018年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

問(1) (配点: 30点)

(設例) の事実1記載の下線①・同②の行為の適法性について論じなさい。

問(2) (配点: 20点)

(設例) の事実2記載の本人写真の証拠調べ請求に対し、乙の弁護人が異議を述べた場合、これを証拠とすることができるか、論じなさい。